

# エゾマツ

北海道ボランティア・  
レンジャー協議会  
第22号  
発行責任者 八戸 克美  
1992年7月20日

## 「巻頭言

四季を彩る「ナナカマド」に魅せられて

副会長 大友 健

季節の歩みを、山野の樹木により知り、森林又は樹群のなかで植物共存として、感動をしながら過ごしてきた私だけに、居住地の周辺は、緑の倉庫群とも言える円山原始林を形成するグリーンベルトの一端にあり、朝夕野鳥の声を聞き、梢をわたる風の音を聞き、そして樹の香りあふれる極めて自然に恵まれた環境を味わっている。

作家の、中山千夏さんがグリーンエッセーの一節に「植物は楽しい。実に多様なその姿や性格を見るのが楽しい。」と言うことを、《草木の意志》と題して書かれていたのを読んだ。見慣れた街路樹の葉の中に、目立たないが大きな花を見つけ、その木がハンテンボク別名ユリノキと知ったとき、5月は素晴らしく、一回りも大きな豊かさがあるような感動を覚えたと言われていた。

樹木は、春芽出しから四季を繰り返し、感動の雰囲気を作ってくれる。

私ら素晴らしい環境にありながら、いつも眺めていた道端の2本の「ナナカマド」に楽しさを味わわせてもらうようになった。二階の窓より全体が眺められる2本並ぶ「ナナカマド」1本は株立ち、他のほうは、地上2メートルあたりより株立ち状となり、今では力強く大地に根づいた、たくましさを感じさせる壮年の木である。5月には若葉が風にそよぎ、陽光に透けて見える緑の美しさ、四季それぞれに変わる樹木の生態に、深く感心を抱きながら、初夏から盛夏、そして初秋から晩秋、白い雪を抱く赤い実をつけたこの木の自然の営みに、心を向けた私に、絵画の心をよみがえらせたのである。初夏の西陽を一杯に浴び、雲の流れは茂る葉に陰影をつけてくれ、3色にも、5色にも色合いが出て来ている。これから迎える秋の紅葉、初冬の赤い実と、今年も気品に満ちた季節を送ってほしいと願いつつ、今夕もブラインドを下ろす私なのである。

## 林業技術専修講座

### 「インストラクターリーダー養成」講座に参加して

札幌市

田原 弘之

「エゾマツ」21号のお知らせで標記講座の内容に興味があり、参加しようかと思っていたところに、広報の佐々木さんからお誘いの電話があり、早速、申し込み参加した次第です。

- ・ 開催日時 : 平成4年5月19日～22日
- ・ 開催場所 : 北海道立林業試験場(美瑛市)

参加者は、道内各地から12名(8名がボンティア・レンジャー協議会会員)でした。以下その体験を思いつくまに記してみました。

試験場の本庁舎の玄関前広場正面に、メタセコイアの大木が2本並んで立っているのはなかなか見事であり、その左手に研修棟、右手奥に4日間お世話になった研修宿舎がある。

広い構内で興味を引いたのは、薬用植物が集められた一面でその効用の多さには驚かされました。またその隣には木であればすべて刈り込んで生垣にしてしまうという、見事な数十種類もの生垣見本園にはびっくりすると同時に圧倒されました。

講座の内容は、北海道の森林の現状、その働き、野生動物(このなかで中田講師の野ネズミの話に関心を持った)、現地学習での森の中での遊びと学習、応急手当て、野生キノコ、場内見学等盛り沢山で4日間ではとても消化できる量ではなく、とても時間が足りなく一寸欲求不満の感があり残念でした。

これは場内見学にしても、優れた研究がなされているのだからもっとじっくりと説明を聞いて、見学出来る時間が欲しかった。しかし、3泊4日という限られた時間内で是非講義しなければならぬことが沢山あり、やむを得ないことかと思う。

出来れば、後2～3日もあれば良いのだが……………中でもバスで砂川の少年自然の家に出掛けた現地学習での石山登山、山頂でのネイチャーゲームは楽しかった。また、2日目の工作は松かさや笹の小枝を渡され、制限時間内に何かを作るもので久しぶりに子供に戻り、無くなりかけた創造力を何とか働かせようと真剣に工作したこと等々……………

4日間ではあったが、構内にある研修宿舎から朝ノートを片手に研修棟に行き講義をうけるのは何十年振りかにか学生時代の寮生活を思い出し、楽しい4日間でした。また、久しぶりにお会いしたボランティア・レンジャー協議会の方々との友情を暖めた4日間でもありました。

## ボランティア・レンジャーの活動状況に 対するアンケート調査の結果について

保健環境部自然保護課  
保全係長 三岡 修

昨今、環境問題は国際的な注目を浴び、6月にはブラジルで「国連環境開発会議（UNCED）」が開催され、地球環境を守る上での総合的な行動計画である「アジェンダ21」が合意されました。そしてこれらのことが、マスコミで大きく取り上げられていますが、地球規模の環境問題も一人一人の足元からの実践活動が何よりも必要なことは、言を待ちません。

人々に自然に対する正しい知識と体験の機会を提供することが、自然保護行政を推進する上で必要不可欠という考えから、自然保護の普及啓発事業の一環として、また、自然環境教育の一部として昭和61年からボランティアレンジャー育成研修会が開始されました。

平成3年でちょうど10回の研修を終え、今春ボランティア・レンジャーの活動状況に対するアンケート調査を実施したところであります。

皆様方には公私共にご多用の中を多くの方々の協力をいただき、初期の目的を達成してアンケート調査を終了することができました。まずは、皆様方の御協力に厚く御礼申し上げますと共に、数々の励ましのお言葉やご提言をありがたく受け取らせていただきました。

皆様方からのご意向を今後の行政の推進の中で可能な限り具体化できるよう努力してまいりたいと考えております。

別紙に「ボランティア・レンジャー活動状況アンケート調査結果」を掲載させていただきます。皆様方へのアンケート調査に対するお礼と報告にかえさせていただきます。調査結果を簡単に概括しますと次のようになります。

### 1 調査の概要

次の事項を中心に11項目の設問をした。

- (1) ボランティア・レンジャーの参加の実績について
- (2) ボランティア・レンジャーの参加に対する可能性について
- (3) ボランティア・レンジャーが参加する上での阻害要因について

## 2 アンケート調査に対する回答率

- (1) 397名のボランティア・レンジャーの内住所不明者30名を除く367名に調査依頼をした。
- (2) 367名中244名の回答があった。
- (3) 回答率は、66.5%であった。

## 3 アンケート調査結果の概要

- (1) ボランティア・レンジャーの66%が何らかの形で自然観察会等に参加している。
- (2) 自然観察会等に参加したボランティア・レンジャーの内、ボランティア・レンジャーとして参加した者は46%、一般参加者として参加した者は44%とほぼ同数であった。
- (3) 活動回数は年1~3回が60%を占めた。一方4~9回参加した者が29%もいた。
- (4) ボランティア・レンジャーに対する活動要請については、63%の者が要請を受けたことがないと回答しており、ボランティア・レンジャーに対する取組みが不足していることを、伺わせた。
- (5) ボランティア・レンジャーに対する活動要請を受けた者は、60~80%の比率で活動に参加しており、今後行政その他の機関の積極的な働きかけが必要である。
- (6) また、今後のボランティア・レンジャーに対する協力要請については84%の者が参加する姿勢を示している。
- (7) ボランティア・レンジャーが活動する上で必要な条件としては、組織、情報、教育等多岐に渡っている。
- (8) ボランティア・レンジャーの向上のために事後研修として実践セミナーを実施しているが、98%の者が今後とも開催が必要であると回答している。
- (9) また、開催回数も年1~2回必要とする者が、74%になっており年3~4回と回答する者も23%いた。
- (10) ボランティア・レンジャーの活動の場として、各支庁で自然教室を開催していたが、半分の者が自然教室の開催の事実を知らず、また86%の者が参加したことがないと答えている。

ボランティア・レンジャー活動状況アンケート調査結果

1	ボランティア・レンジャー育成研修会を終了された後に、あなたは自然観察会や探鳥会等自然にふれあう行事に参加したことがありますか (1) はい (2) いいえ	66.0% 34.0%
1-1	(1)と答えた方はどのような立場で参加されましたか ア ボランティア・レンジャーとして参加した イ 一般参加者として参加した ウ その他(どのような立場で参加しましたか)	46.2% 44.3% 9.5%
1-1-ア	アと答えた方は最近1年間で何回参加しましたか ア 1~3回 イ 4~9回 ウ 10回以上	60.0% 29.0% 11.0%
1-1-イ	イと答えた方は最近1年間で何回参加しましたか ア 1~3回 イ 4~9回 ウ 10回以上	66.0% 26.0% 8.0%
2	これまでにボランティア・レンジャーとして、協力要請がありましたか (1)要請があった (2)要請がなかった	37.0% 63.0%
2-1	どこから要請がありましたか ア 市町村 イ 教育委員会 ウ 北海道 エ 北海道ボランティア・レンジャー協議会 オ その他	8.4% 0.9% 40.2% 37.4% 13.1%
2-1-ア	市町村からの要請に対し参加しましたか A 参加した B 不参加	78.0% 22.0%
2-1-イ	教育委員会からの要請に対し参加しましたか A 参加した B 不参加	100% 0%
2-1-ウ	北海道からの要請に対し参加しましたか A 参加した B 不参加	57.0% 43.0%
2-1-エ	北海道ボランティア・レンジャー協議会からの要請に対し参加しましたか A 参加した B 不参加	63.0% 38.0%

2-1-オ	その他の機関等からの要請に対し参加しましたか A 参加した B 不参加	79.0% 21.0%
3	今後ボランティア・レンジャーとして協力の依頼があった場合は、参加できますか (1) 参加できる (4) 参加できない	84.0% 16.0%
3-1	参加可能な回数は ア 要請があれば概ねいつでも イ 月に数回 ウ 年に数回 エ その他	15.0% 13.0% 53.0% 19.0%
3-2	参加可能な時期は ア 年中いつでも イ 日曜・休日 ウ 平日 エ 春・夏休み オ その他	26.0% 46.4% 12.3% 5.1% 10.2%
3-3	参加可能な場所は ア 地元市町村 イ 地元支庁管内 ウ 全道各地 エ その他	43.0% 37.0% 15.0% 5.0%
4	あなたが最も興味をもっている部門はどれですか ア 植物(樹木、高山植物、野草) イ 動物(獣類、鳥類、虫類) ウ 地質(地史) エ 山菜(きのこ) オ 天文 カ 歴史(産業) キ その他	40.0% 26.3% 9.1% 9.1% 2.9% 7.6% 5.0%
5	あなたが今後指導したい、又は、解説できると思う部門はどれですか ア 植物(樹木、高山植物、野草) イ 動物(獣類、鳥類、虫類) ウ 地質(地史) エ 山菜(きのこ) オ 天文 カ 歴史(産業) キ その他	42.3% 27.5% 5.5% 6.5% 2.5% 7.7% 8.0%

6	<p>今まであなたが自然観察会等に参加されなかったのは、どのような理由からですか</p> <p>(1) 催しの情報がなかった</p> <p>(2) 催しの参加依頼がなかった</p> <p>(3) 仲間がいなくて参加できなかった</p> <p>(4) 時間がとれなかった</p> <p>(5) 参加する意欲がなかった</p> <p>(6) その他</p>	<p>22.7%</p> <p>18.2%</p> <p>7.6%</p> <p>39.4%</p> <p>3.4%</p> <p>8.7%</p>
7	<p>ボランティア・レンジャーとして参加する場合、特に必要と思われることはなんですか</p> <p>(1) 組織 : 活動を指導、助言する組織が必要</p> <p>(2) 情報 : 活動に必要な情報を収集する手段、方法</p> <p>(3) 支援 : 必要な資材(制服、教材等)の支援等 交通手段の確保</p> <p>(4) 財政 : 旅費、食費等の実費支給</p> <p>(5) 保険 : 保険の制度化</p> <p>(6) 教育 : ボランティア・レンジャーの再教育、 資格化</p> <p>(7) その他</p>	<p>20.1%</p> <p>21.9%</p> <p>11.4%</p> <p>10.1%</p> <p>9.5%</p> <p>24.5%</p> <p>2.5%</p>
8-1	<p>ボランティア・レンジャーの方々の資質の向上や、相互間のつながりの強化等のために北海道は実践セミナーを実施していますが参加したことがありますか</p> <p>ア ある</p> <p>イ ない</p>	<p>27.0%</p> <p>73.0%</p>
8-2	<p>今後の実践セミナー開催について</p> <p>(1) 必要と思う</p> <p>(2) 必要と思わない</p>	<p>98.0%</p> <p>2.0%</p>
8-A	<p>開催について</p> <p>ア 年に1回</p> <p>イ 年に2回</p> <p>ウ 年に3~4回</p> <p>エ 年に5回以上</p>	<p>34.0%</p> <p>40.0%</p> <p>23.0%</p> <p>3.0%</p>
8-B	<p>研修日数について</p> <p>ア 0泊1日</p> <p>イ 1泊2日</p> <p>ウ 2泊3日</p> <p>エ 3泊4日</p> <p>オ 4泊5日以上</p>	<p>2.7%</p> <p>54.6%</p> <p>41.1%</p> <p>1.6%</p> <p>0%</p>

8-C	研修時期について A 春 B 夏 C 秋 D 冬	29.3% 26.3% 28.3% 16.1%
8-D	研修内容について A 分野別に B 全体的に C その他	57.0% 38.0% 5.0%
9-1	北海道では平成2年から各支庁毎に自然教室を開催して いますが、知っていましたか ア はい イ いいえ	42.0% 58.0%
9-2	自然教室に参加しましたか ア 平成2年参加 イ 平成3年参加 ウ いいえ <span style="float: right;">ア+イ=</span>	13.8% 86.2%
9-3	自然教室について参加への通知がありましたか ア はい イ いいえ	26.0% 74.0%
10	親睦団体として北海道ボランティア・レンジャー協議会が設 立されていますが、参加していますか (1) 参加している (2) 参加したことがある (3) 参加したことがない (4) 全く参加する気がない	40.5% 7.4% 49.2% 2.9%
11	今後のボランティア・レンジャーの自然観察会等の活動範囲 を拡大し、レンジャー相互の協力体制や情報交換等を行うこ とが必要と考えておりますが、あなたは類似のボランティア 組織に加入していますか ア はい イ いいえ	47.0% 53.0%
	ボランティア・レンジャーの総数 調査対象者数 回答数 回答率	397名 367名 244名 66.5%



(野幌自然観察会に参加して)

「木漏れ日と鈴子(おさなご)の声のカクティル」

ニセコ町 池田ひろみ

「ニセコの山から”自然を求めて”、わざわざ札幌に出るって矛盾しているよねえ」  
野幌森林公園へ向かう車の中で、誰からともなく声があがる。我家3人とTさん、Tさんのお母様の計5人。

「ワッハハ……これぞ贅沢ってものです」

札幌在住のTさんは、何時もの深淵とした声でおっしゃる。高齢のお母様は、足の補助に市から借りた車椅子を持参。それでも参加なさるといふ心意気に私は打たれた。

”自然と、もっと仲良くなる”手掛かりを得るために行くのだ。と私は自らを納得させた。現地集合場所では、ニセコのO夫婦とあう。O夫人は妊娠7ヶ月のお腹を抱えての参加。様々な条件の人が出られる、というのが嬉しい。もう1人、お誘いしたMさんは高校教師。樹木のこと詳しいとのことで足を運んで頂いた。

全体を10余人ずつの小グループに分け、それぞれボランティア・レンジャーの人々が説明に付けてくださる。夫もレンジャーなので、Tさんの属するグループに入る。

参加した子供は少なかったが、息子は同年代の子供達とすぐ仲良しになり、あちこち一緒にとびまわって虫や蝶のぬけがら等を見つれたり、レンジャーの方々の説明の一語を難堪返しに「マイヅルソウ！」などと叫んでは走り回ったり。折しもエソハルゼミの鳴き声が樹間から降ってきて、心も洗われるようであった。

新しく憶えた植物の名、アサダ・ハリギリ・ハクウンボク・エソユズリハ・シウリザクラ・ズダヤクシュ・チゴユリ・コンロンソウ・コウライテンナンショウ。

様々なことを教えて頂いたが、はっと眼をひらかされたのは、広葉樹の間からは陽光がさしやすいためその下にまた色々な種類の木・草が生える。

一方、針葉樹の葉の間には陽が射しこみにくいのでその下ではたくさん植物は育ちづらいということ。”広い”葉なので見えざる部分も広いと思ったら大間違い。

針葉樹は密生した葉が付いているので「昼なお暗い、杉の並木」とるのだろう。

Mさんのお話し、「トドマツは普通山地に生えるのに、こうした平地に太いトドマツが生えている。それがここの特徴です」。

約2.2Kmの道を歩いて感じたことは、私たち人類も自然の一部だということ。木々は酸素の供給のみならず治山治水になくてはならないものだし、騒音までも吸収してくれると言う。

私たちが壊してきた自然にどのようなお返しをしたらいいのか、しばらく静かに考えている内にも、木々は枝を揺らし薫わしい香りを頭上から送り続けてくれた。

(会員 ニセコ町 池田 郁 郎 夫人)

(広報部から)

池田さんは、ニセコ町でペンションふきのとうを営んでいます。住所と電話番号は次ぎのとおりです。

〒 048-15 虻田郡ニセコ町ニセコ482

☎ 0136-58-2623

### お知らせ その1

#### 北海道ボランティア・レンジャー協議会 第7回定期総会の開催

7月7日の役員会で下記のとおり、北海道ボランティア・レンジャー協議会第7回定期総会の日時・場所など決定しました。今回は総会に先立ち、北大植物園での自然観察も行ないませんが、時間的に都合の悪い会員は、総会のみのお出席でも大歓迎です。

改めて総務部から、会員の皆さんにお出席の有無・委任などご案内しますが、第7回定期総会では、役員改選と会員(6月12日現在で111名が会費納入済み)も100名を超える構成になりましたので、事業計画の充実などご審議されるよう是非出席ください。

#### 記

開催日時 平成4年8月8日(土)

と 場 所 会員研修 13:00~15:00 北大農学部付属植物園  
総 会 15:00~17:00 カデル2・7 9F(940号室)  
札幌市中央区北2条西7丁目 ☎231-4111  
内線36153

懇 親 会 17:00~19:00 サンコック 5階ビル地下 1B  
札幌市中央区北3条西7丁目 ☎271-2908

## 自然観察の宿「青桐の家」から

虹田町 川 鱒 定 明

北海道ボラレンの皆さん、こんにちわ。

「退職しましたら暇になります、手伝います」と言っていました  
が、週末が忙しい民宿業を初めまして、百姓仕事もあって、協力でき  
ず申し訳ありません。そこで、少しばかりこちらの様子や宿の宣伝を  
させていただきます。

場所…洞爺の温泉街から6キロ。虹田町月浦94。洞爺湖畔から1キ  
ロほど山に上がった所、月浦地区に入ると小さな看板が出ていま  
す。湖が一望に眺められ、毎晩、花火も見えます。小鳥がたえま  
なしにさえずっています。

名称…青桐の家 あきとうのいえ 電話…01427-5-3266。

建物…一部ログハウス。客室は11ありますが、半分は固定客で、一  
般にお泊めできるのは5室20人程度。トイレは水洗。元は山村  
留学の施設でした。

宿賃…大人1500円 小人900円

食事…自炊です。調理器具や食器、ガス、お使いください。家内と二  
人でやっていますので、掃除、夜具の片付けなど、すべてセルフ  
サービスでお願いします。

私は周りの畑で野菜作り。5月は山菜採りに忙しい毎日でした。冬  
の薪を用意したり、イチゴを摘んでジャムを作ったり、畑の草取り、  
来週はラベンダーの刈り取り、雑草が伸びほうだいで背丈を越さんば  
かり、次から次ぎと仕事が待っています。

小鳥のさえずりの賑やかなこと、ウグイス、カッコウ、オオジシギ、  
ヒヨドリ、モズ、ジュウイチ、ホトトギス、キビタキ、カケス、チゴ  
ハヤブサ、キジバト、ツツドリ、まあまあ種類の多いこと、それにこ  
ちらへ来て気付いたんですが、ホトトギスやオオジシギは、真っ暗に  
なってもさえずっています。『鳴いて血を吐くホトトギス』って本当

ですね。 Teppen Kake Taka と、うるさいほどです。

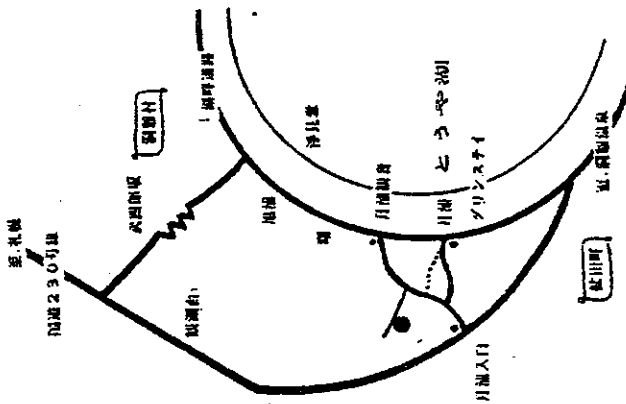
自然観察には、持ってこいの場所です。ナシの木には毛虫がウジャウジャ、若い芽を食いつくしてしまつて、丸坊主、たたき落としたものの、こりゃあ枯れるかな、根を引っこめくかなと思つたら、また再び芽を吹いてきました。農薬がなくても自然の生命力はすばらしいもんだ、感心していると、枝には、エゾシロチョウのさなぎがビッシリ。ようし、こいつらをチョウの標本にしてやれ、しめしめと思つたら、ところがです。さなぎには、一つ残らずナントカこぼちの卵が産みつけられ、シロチョウは1匹も出てきません。自然のカラクリの妙を見た思いです。

小川にカワニナを100匹放しました。ホタルの幼虫を導入して、来年はホタルの光り舞う里にしたいという夢もあります。会員のかたでどなたかアドバイスしてください。

9月に入ると、ハナマメ、ジャガイモなど畑の収穫、きのことり、コクワ、マタタビ、ヤマブドウなどの木の実取り、またまた忙しいことでしょう。

趣味の焼き物(陶芸)をやる余裕は当分なさそうです。こんな暮らしの毎日で、皆さんの集まりに顔を出せないのは残念ですが、皆さんに来てもらえたら、どんなに嬉しいことでしょう。お待ちしております。畑で取れた新鮮な野菜も提供できます。

交通の便は、じょうてつバスか道南バスで温泉街下車。鉄道は洞爺駅下車。電話で予約下されば迎えに行けます。



## お知らせ

平成4年度ボランティア・レンジャー実践セミナーの開催について  
北海道（保健環境部自然保護課）では、4年前からボランティア・レンジャーのレベルアップのため、実践セミナーを開催しています。

本年度は、下記の日程により開催される予定です。私たちとしては勉強する機会が少ない実態から、折角の機会でもあります。是非参加して「人と自然の架け橋」の役割が、向上する一助にしましょう。

### 記

開催日時：平成4年 9月18日（金）～9月19日（土）

開催場所：黒松内町 歌才自然の家

黒松内町字黒松内584 ☎01367-2-3010

申し込み先：

北海道保健環境部自然保護課保全係

011-231-4111 内線 25-571

※ 現在予定で、具体的な申し込み方法などについては道自然保護課保全係に照会ください。

## 『釧路からの便り—その2』

会報第21号で「釧路からの便り—その1」……「釧路湿原の鳥」を掲載しましたが、今回は「その2」として、「釧路湿原の植物」を同じ釧路市の伊藤竜一さんの資料提供で載せます。

**学習日誌** 7月 6日（木） 天候 くもり 43名参加

**学習の主な記録** 講師 市立博物館 学芸員 新庄久志

- ◇ 現地学習講師の紹介（高嶋八千代、田中定男、三村節子の3氏）
- ◇ 植物から見た釧路      ◇ 北方系植物の水平分布      ◇ 釧路湿原の植物群落
- ◇ 湿原とのつき合い方      ◇ スライド（70枚程度）映写

**釧路地方の地域区分から見た植物との出会い**

- ① 春採湖・大楽毛・紫雲台・ズリ山・三津浦 ……………海岸部

- ② 根鏝台地・阿寒二山 ..... 山岳部
- ③ 釧路湿原 ..... 湿原部

北方(寒地・高山)系植物が、海岸部から山岳部までに広く分布している釧路地方

① 霧の発生

年間湿度の平均値.....90%      年間平均気温.....摂氏5.5度

植物の活動指数.....47      日照度 .....46      などの指数で理解されるように冷涼な気候による。

② 海岸部から内陸部へ平坦な地形・低い丘陵が広がり、内陸深部まで海霧が吹き込まれる。(内陸30Kmくらいまでで、海面から僅か2mくらい高くなるだけ)

③ 季節風

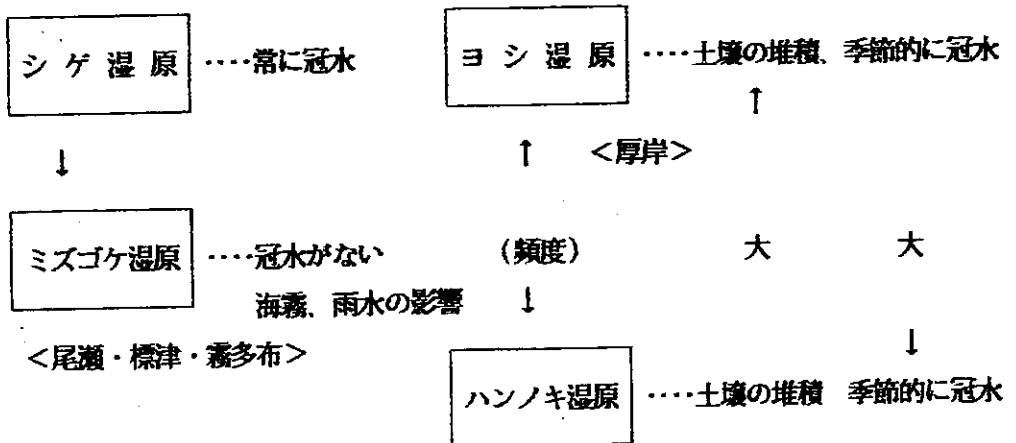
夏.....南東風<小笠原気団>、冬.....北西風<シベリヤ気団>の影響が強い。

湿原の成り立ち

このような気象条件から、枯れた草本類が腐植しきることなく泥炭化し、年間1mmの厚さで形成されるといわれている。

釧路湿原では、平均3mの泥炭層の厚さがある。また、泥炭は水と土との中間物質で、釧路湿原も変化の途中であるがその規模が大きいかつ、大きな河川があるので霧多布・標津の湿原のように変化が大きい。

釧路湿原の植物群落は「湿原の博物館」



釧路湿原は、スゲ湿原→ヨシ湿原→ハンノキ湿原という変化をするが、その逆の変化もする。

### 湿原との接し方

湿原はゆっくり成長し、泥炭は1年で約1mm堆積されると言われているから現在までにその層厚から、3000~4000年ぐらい経過しているものと思われる。成長・変化がゆっくりであるから、動植物はその環境の変化に適応することが出来、絶滅することはない。

したがって、人間も湿原では生活する動植物と同じペースで、ゆっくりと接する必要がある。

(堤 寛治さん・菅原大誠さん記)

### 現地学習

7月16日 天候 くもり 参加者35名

学習の主な記録 講師 高嶋 八千代・田中 定男・三村 節子

- ◇ 講師3氏の自己紹介
- ◇ 釧路湿原の生い立ちの復習
- ◇ 北斗展望台周辺の植物
- ◇ サテライト展望台からの展望
- ◇ 車窓から見える植物
- ◇ コッタロ湿原展望
- ◇ 郷土資料館前庭
- ◇ 達古武湿原

「湿原」を自分ならどう紹介するか、という高嶋さんの言葉から始まった。

10時半、北斗展望台遊歩道、サテライト展望台より釧路湿原を眺望する。遊歩道付近の植物は、木本でミズナラ・ハリギリ・シナノキ・ハンノキ・イタヤカエデが多く、キハダの花を見る。この外マタタビ・ミヤママタタビが散見される。草本(ほんの一部のみ)では、ナズナ・ミミナグサ・チシマオドリコソウ・チモシー・ツメクサ・スカシタゴボウ・チシマアザミ・イヌタデの外、帰化植物多数。

### 釧路湿原の眺望

旧鶴居軌道跡から湿原内部に広がる草原、タンチョウの親子連れを眼下に見る。岩保木水門が霧に霞み、10Km先がやっと見える天候が悔やまれる。左手奥に、赤沼・宮嶋崎・キラコタン崎を望む。本年秋完成予定の遊歩道工事が順調に進んでいると聞く。

ハシドイ(ドスナラ)の紹介、ソズナラ・モンゴリナラ・カシワの相違点を聞きながら、車窓から彩りさまざまな草花を追う。ヤマブキショウマ・フタバハギ・センダイハギ・キバナアヤメ・カラフトイバラ・ホザキシモツケ・エソシカシユリ・エソカンゾウ・フランスギク。川面には、バイカモの白い花が揺れ(最後部の座席から、花たちとの交

信が出来ラッキーでした)、フランスギク・マーガレットの説明を聞きながらショウドウツバメの巢を見上げる。

「いずれがアヤメかカキツバタ」これほど識別しにくいものはないと、ある植物同好会の会誌での一文を読んだことがあるが、実物を見ると容易に識別出来るのも面白い。釧路地方で見ることが出来るアヤメ類(アヤメ・ヒオウギアヤメ・カキツバタ・ノハナショウブ)が山岳部・湿地帯・海岸部に概略、分布が固定しているようだ。つまり、山岳部にアヤメ、湿地帯にはカキツバタ、海岸部にヒオウギアヤメ・ノハナショウブと言えそうだ。

正午直後、コッタロ湿原入り口に着く。砂利道の感触を味合い、埃の匂いを久し振りに嗅ぐ。先月の晩霜に痛んだクルミの葉を見て、3分後に湿原域に入る。

左手にミツガシワの葉が水面を被い、ノリウツギ(サビタ)の花が川沿いに見せ、そしてオニシモツケの白い花の群。ウラホロイチゲが春には咲く湿原の初夏は、カキツバタの薄い葉が広がり、キタキツネが横切る。

サルルン沼にタンショウを見、12時直前に郷土資料館に着く。前庭にコウリン(エフデ)タンポポの叢が一カ所。

13時40分湿原入り、重装備振りが笑いを誘う。車内外でも爆笑(?)が起きたが、問題の水嵩は10日間で大きく減り、並の長靴でも大丈夫だった。真新しい胴長の反射もまぶしい雄姿も湿原には少し不釣り合い。

道路端にタチギボウシ、湿原部に入るとイヌスギナや待望のトキソウの大振りな花、ツルコケモモ・ワタスケ・ミズゴケの塊にモウセンゴケが色づいた蕾を見せていたが、カキツバタの株が痛々しい。

エゾノレンリソウの濃い花房と対照的なアギスミレの白い小さな花が2株3株。ホロムイツツジの青い実が湿って連なり、ヤチヤナギの緑白色の葉が揺れもせず一行の通り過ぎるのを見送る。

湿原は踏み分けられ、踏み付けられた泥炭が真っ黒い水と共に乱れる。踏まれた湿原の蘇生はないという。3000年の「時」の堆積が10有余年で崩れ去るとは、なんと湿原はデリケートであり、踏み付けに弱いものだろう。この性格を熟知して湿原との交際を心掛けるのが湿原と親しむ第一歩であると改めて知った。孫の代まで湿原を原初の姿で遣す務めが現在の世代に課せられているのであろう。

帰りの車中で「釧路」の名を冠した植物と併せて根室・色丹の名のついた植物の紹介があった。クシロチドリは絶滅種(?)でないかとも、この他クマ(14)、オニ(52)、ニホン(1)、イヌ(70)、ヒメ(93)等についても紹介があった。



「名もない草花」が本当にあると大変で、まづ在り得ないこと。名前で呼び合えるのが植物であり、そのような付き合いをしたいものだ。「鑛路湿原を壊さないで行きたいもの」との言葉で今日の講座を締められた。

(記録者 不明)



白滝村

小栗法韶

「自然のことが知りたい」。そんな気持ちで昨年、丸瀬布町で開催されたボランティア・レンジャー育成研修会に参加させて頂きました。

厳しい日程の中で、皆さんが熱心に勉強されていたことやいろんな市町村の方たちとお話し合いが出来たことなどが、懐かしく思い出されます。

だが肝腎要の、色々と教えて頂いた中味は大部分忘れてしまっています。その理由は、普段の不勉強のためだと思うのですが、こんなことでは「これからやってみたい関心事程度」のことで、終わってしまいそうです。これだけは、自分の努力以外に方法はないと分かっているにもかかわらず手をつけられないでいます。

過日、地域に密着した活動の出来る会を結成しようとの熱心な発起人の働きかけで、北海道ボランティア・レンジャー協議会オホホック支部が結成されました。そして7月12日に第1回の勉強会がもたれたのですが、仕事の都合で参加出来ませんでした。

最近、地域の活性化のために大切であると、各種のイベントが催されており沢山の人が集まるように色々と趣向を凝らしております。そして主催者側のお手伝いの方たち、参加される方たちと両方を合わせると相当の人数になります。週末は、どこかの市町村でこんなイベントが組まれており、結構忙しい方も多いかと思います。

自然を資源活用してのイベントを開催している市町村はありますが、自然を学習することをテーマにしたイベントは、この近隣町村では零に等しい程です。人を集めるのに仕方がないことかも知れません。

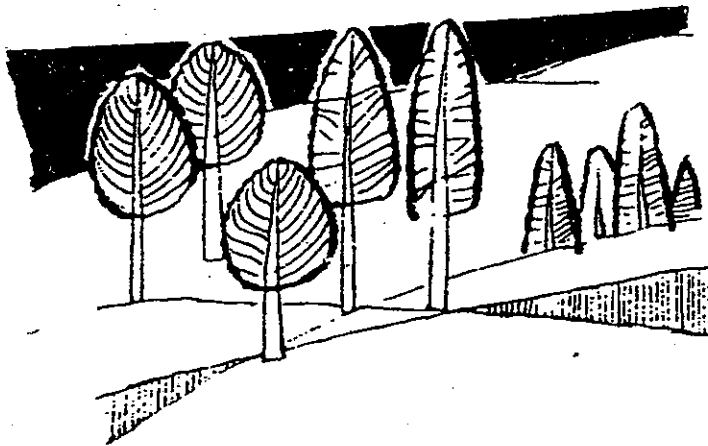
これからは、身の回りの小さな自然を大事にすることに心掛けて生活しようと思っています。思いつくままに書き、まとまりのない文章になりましたがお許し願います。

## お知らせ その2

野幌森林公園 夏の森林観察会（野幌森林公園事務所主催）が、8月9日（日）の午前9時30分から午後2時30分の時間帯で、森の自然教室（集合）→瑞穂連絡線→瑞穂の池広場（昼食）→瑞穂線開拓の村横→開拓記念館前（解散）の約3.7Km観察コースで実施されます。

ご承知のように、北海道ボランティア・レンジャー協議会が協力していますので会員の皆さんの参加をお願いします。

また、この下見は、8月1日（土）野幌森林公園「森の自然教室」午後1時集合で行ないます。



## お知らせ その3

「野幌自然観察の集い」を平成4年9月6日（日）AM9:30~12:30野幌森林公園で北海道ボランティア・レンジャー協議会主催で実施します。一般参加者への案内は「別紙」によりますが、会員の皆さんからもPRと参加をお願いします。

また、この下見を8月29日（土）AM10:00から、野幌百年記念塔前総合案内所広場集合で行ないます。

「御案内」

## 野幌森林公園 夏の森林観察会のお知らせ

緑濃い真夏の森林公園で蝉時雨の中を歩き、北国の短い夏に咲くノリウツギ、キツリフネ、ツユクサなどの花々を探してみませんか。

〈主催〉北海道野幌森林公園事務所  
〈協力〉北海道ボランティア・レンジャー協議会

- 日時  
平成4年8月9日(日) 午前9時30分から午後2時30分まで
- 集合場所・集合時刻  
野幌森林公園内「森の自然教室」(百年記念塔下売店)前に、午前9時30分までに集合してください。
- 観察コース  
森の自然教室(集合)→瑞穂連絡線→瑞穂の池(昼食)→瑞穂線開拓の村横経由→開拓記念館前(解散) (約3.7kmのコースです。)
- 案内者  
北海道ボランティア・レンジャー、野幌森林公園事務所職員
- その他
  - \* この森林観察会にはどなたでも自由にご参加ください。参加費は無料です。事前の申し込みは必要ありません。
  - \* 昼食、雨具をご用意ください。(小雨決行です。大雨など悪天候の場合は中止します。)
  - \* 双眼鏡やルーペなどの観察用具、植物や野鳥の図鑑、筆記具などをお持ちになると便利です。

### 〈交通機関の御案内〉

- \* 新札幌駅前からJRバス「開拓の村行き」に乗車、「野幌森林公園」下車、徒歩約6分。(新札幌発9:15又は9:17が便利です。)
- \* 新札幌駅前からJRバス又は夕鉄バス大麻・江別方面行きに乗車、「開拓の村入口」下車、徒歩約16分。
- \* JR函館線「森林公園駅」下車、徒歩約20分。
- \* 車でおいでの方は、駐車場(有料)を利用してください。この駐車場は、午前9時から利用できます。

お問い合わせ先

北海道野幌森林公園事務所公園管理部公園利用課  
〒004 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道開拓記念館内  
電話 011-898-0455 (内線42)

「ご案内」

## 「野幌自然観察の集い」

初秋の訪れを感じさせる野幌森林公園の自然にふれ、ネチャーゲームと自然観察を楽しみませんか。(森と遊び、森と親しみ、森を観察する)

- ◎ 主催 北海道ボランティア・レンジャー協議会
- ◎ 後援 北海道保健環境部自然保護課
- ◎ 協力 北海道野幌森林公園事務所
  
- ◎ 日時 平成4年9月6日(日) 9:30~12:30
- ◎ 集合場所 野幌森林公園内「森の自然教室」(百年記念塔下売店)前に午前9時30分までに集ってください。
- ◎ 観察コース 「森の自然教室」前を出発し、開拓記念館前仮称「開拓のコース」から「開拓の村」コースに合流して、瑞穂の池広場で12時30分に解散する距離約2150mのコースです。
  
- ◎ 案内者 ボランティア・レンジャー(自然解説員)・公園事務所職員
- ◎ その他
  - ☞ この「野幌自然観察の集い」は、どなたでも自由に参加できますが親子づれなど、子供さんの参加をとくに歓迎します。☞ 参加費・事前の申し込みなどは不要です。☞ 雨具をご用意ください。(小雨決行です)☞ 双眼鏡・ルーペなどの観察用具や野鳥・植物図鑑などあれば便利です。

### 【交通機関のご案内】

- ☞ JR森林公園駅下車 徒歩約20分 ☞ 地下鉄新さっぽろ駅からJRバスを利用(北レ線バスのりば10番開拓の村行きに乗車し、野幌森林公園下車 徒歩約6分 8:40分発→8:50分着と9:17分発→9:27分着(日曜ダイヤ)があります。☞ 自家用車でおいでの方は、駐車場<有料>を利用してください。

### ◇ 問い合わせ先

北海道野幌森林公園事務所公園管理部公園利用課 ☎898-0456(内線42)

北海道ボランティア・レンジャー協議会総務部 ☎875-8602(夜間)

## 自然観察会の計画と結果

留萌市

長岡宏幸

長岡範子

1. 本年度第1回目として、4月29日に「宮島沼」への鳥見行を計画。10人の参加者がまとまっていたのですが、当日生憎の雨のため中止としました。

- ① ..... 1時間30分の自家用車の旅が、雨での困難化を増している。(危険は回避する)
- ② ..... 湖沼での探鳥会は、動きが少ないので非常に寒い。(これはいくら言っても信じてもらえない)

2. 第2回目は、小平町の本郷公園での観察会を5月31日計画しました。そろそろ「エソハルゼミ」の活躍する時期であるので早朝の時間帯としました。

- ① ..... 参加者 8名
- ② ..... 観察された鳥

キビタキ・コルリ・ウグイス・アオジ・オオルリ・ホオジロ・ヤブサメ・カッコウ・センダイムシクイ・ツツドリ・カワラヒワ・ニュナイスズメ・ムクドリ・アオサギ・キジバト・アオバト・コゲラ・アカゲラ・ヤマゲラ・キバシリ・シマエナガ・シジュウガラ・ハシブトガラ・トビ・ハシブトガラス・ハシボソガラス

以上 26種

- ③ ..... 特徴的なこと
  - a) キビタキが、さえずりながら5~6mの距離に。
  - b) キバシリが、巣立ちビナを連れて何度も現れてくれた。
  - c) アカゲラが、セミを獲って樹洞?すき間?に押し込み、それをついて食べるのを観察。
  - d) オオルリのさえずりを堪能。
  - e) エソリスも現れた。
  - f) 姿は見えなかったがアオバトの声が印象に残った。
- ④ ..... 咲いていた花

ユキザサ・ニリンソウ・スマレ・ツボスマレ・オオタチツボスマレ・ハ  
クサンチドリ・ズダヤクシュ・ウメガサソウ・フデリンドウ・ネコノメ  
ソウ・マイヅルソウ・カキドウシ・シバザクラ・オダマキ・セイヨウタ  
ンボボ

3. 私たち夫婦が留萌に来て3年ですが、当地ではボラレンの先輩「祐川さん」が講師として親子観察会で活躍されており、私たちもそれに参加させて頂いているうち大人の方々も興味を持っていることを知り、91年にボラレン育成研修会を夫婦で受講させて頂いたことから、観察会を計画してみたものです。

当地は、親子観察会を主催している「留萌海のふるさと館」（郷土資料館）のご理解もあり、支庁自然保護係の若い人も熱心に指導されていることから、ますますの発展を期待しております。

(広報部から)

この本文と、次ぎに掲載しました「ご案内」を長岡ご夫妻から送ってきました。手書きで暖かみ、思いやり、楽しみ、期待感、生物への感謝、自然からの学び、責任などが行間に溢れていますね。

ごく少数でも、自分たちだけで観察会を実施することは大変なことです。しかし、それが私たちボランティア・レンジャーの行動原点だと思うのですが、皆さんはどうお考えでしょうか。



# 宮島沼に「マガン」を 見に行きましょう。

美咲市の宮島沼に2万羽を超えるマガンが来ます。

4月の中旬から5月の初旬まで2~3週間の北へ帰る。日本最後の停留地として利用します。同じおりに北へ帰るハクチョウ、カモ、ワシ。過去には珍鳥中の珍鳥セイヤカシキも来ることがあります。

案内は長岡がいたします。一緒に楽しみに行きませんか。

## ◎ 4月29日(木)みこしの日の祝日。

( 8:30分 留萌発 10:30分 宮島沼着 13:00分 宮島沼発 鶴沼神社で春の花、  
恵菜タムでオドリを期待し 17:00頃まで留萌に着の予定で。

## ◎ 集合場所 = 留萌高校への交差点の馬車帯に 8:30

( どのどの自家用車でいきます。車の向人は長岡に連絡して下さい。 )

## ◎ 準備と注意事項

1. 食事は各自弁当持参して下さい。
2. じっと立って観察出来るのとびと準備して下さい。真冬のみの防寒帯E。(羽のフタ>を着たり)、又足まは長靴がベター。足かあるはもつと楽です。
3. 双眼鏡は必要、望遠鏡あるともっと良いです。図鑑もおと良いです。
4. カラも可です。ハクチョウ、マガン、オカガエは、近くでうつつます。
5. トイレは現地に用意してあります。

## ◎ 雨が降ったら、残念ながらも中止です。

この時間帯に居る人は次のとおりですが、他にいらっしゃる人がいらっしゃる場合は、F3LCP

## ◎ 行ける人 行かない人は、長岡まで連絡して下さい。

< TEL. 3-6149. >





平成2年7月22日、第5回ボランティア・レンジャー育成研修会(日高・アボイ岳)でお世話になりました。ご指導よろしくお願ひします。

私の住む北空知は、1市6町深川市・幌加内町・沼田町・秩父別町・妹背牛町・雨竜町そして北竜町です。北海道の母なる川石狩川、そして雨竜川にいだかれた水田地帯です。東側にはカムイ山、音江連山。西側には恵別岳、雨竜沼と、山あり川ありの景色の良い所です。

昭和41年北竜町碧水に来た時には、学校の裏の美葉川には、からす貝がいてウグイがいて、子ども達とよく川遊びをしたものです。今では護岸工事が立派に出来て、川の流れば狭くなりその頃から較べると約2mぐらい川底が削られて深くなり、粘土が出て砂利がなくなっていました。

そして魚の姿もめっきり見られなくなってしまい、子ども達の釣り姿は全くなくなりました。その頃はヤツメウナギをよく掘えたものです。

今、雨竜川に行ってみると砂利はぬるぬる滑って歩くのに苦勞します。変わりましたね。雨竜川の「ちくし橋」の下には、時々コイの群れを見ましたが……。今ではほとんど見ることが出来なくなってしまいました。でも、雨竜川の堤防の草原では、小鳥たちのコーラスで一杯です。時々キタキツネの親子づれが遊んでいます。

6月、地域の人達に春ゼミの声を聞きましたか?と尋ねてみるとほとんどの人が聞いていませんね。まわりを良く見るとあまり木がありませんから、山の方へでもわざわざ行かないと、ゼミの声は聞けないのです。

七夕が過ぎて、夜の星空は奇麗ですね。これも町の街灯が立派になって、とても明るくなったものですから、空を見ても星など見えません。少し水田の方へ歩かないと、それよりもスイッチボン、テレビがすぐ相手をしてくれます。

こんな田舎にいて自然がすぐ近くにあるのに、遠くて自然を感じなくなっていることに気が付きます。

私の仕事はこんな人たちに自然と仲良くさせる、その世話をすることが出来たら素晴らしいことだなあと思っています。

## 「 自 己 紹 介 」

白糖町

土 野 満

私は、第7回ボランティア・レンジャー育成研修会に参加しました。私が自然に興味を持ち始めたのは、写真を通してです。

ただ写真を撮るばかりでなく、自然を解説出来る先輩が写真仲間に沢山いることに気が付き、「自分も解説出来たら……」と思い、育成研修会に参加しました。

研修を終えて2年になりましたが、まだ皆さんのお役に立っておりません。最初は嫌がる娘を連れ出し、湿原や野の花、野鳥について勉強中です。幸いにも、最近では嫌がって付いてきた娘も自然に興味を持ちはじめ、色々なことを尋ねられています。

そんな私ですが、自分なりに頑張ってみようと思っていますのでよろしくお願いします。

(ひじの みつる)

(広報部から)

ひじのさん。理想的なボランティア・レンジャーですね。自然に親しみ、そして学ぶことを最も身近かで実現されている姿に敬服します。釧路支庁管内では、昨年度までに北海道保健環境部自然保護課で作成したボランティア・レンジャー名簿によりますと、移転先不明を除き27名で、そのうちの5名が本協議会会員です。会員の数が多い少ないは別として、共通の目的を持った地域の仲間としての繋がりが必要ですね。ちなみに会員の氏名・住所・電話番号は次ぎのとおりです。

佐々木 文 雄	085	釧路市第6丁目2-2	0154-41-5750
伊 藤 竜 一	085	釧路市第1条40丁目27-9-6	0154-46-1590
土 田 徳一郎	088-23	上川郡阿寒町145	01548-2-2950
石 川 洋	085	釧路市第3丁目1番22号	0154-46-6528
土 野 満	088-05	白糠町新道第1丁目2-22	01547-5-2586

(敬称略)

## 趣味と自然観察

平成3年度の第8回ボランティア・レンジャー養成講習会（丸瀬布町）を受講して、早や一年が過ぎようとしています。一緒に学んだ方々もそれぞれ各地で自然保護のため活躍されておられることと存じます。

この度、広報部から原稿依頼を受けましたが、正直なところレンジャーとしての活躍など全く皆無に近い私には、何をどのように書いたらよいか、いささか迷いを感じているところです。

せめて、この一年間の私の趣味と自然観察の経過を自己紹介をかね報告させていただきます。

### 定年退職、そして 北の国からの富良野市（麓郷）へ

私は、仕事の関係で過去道内各地を札幌・釧路・稚内・帯広・砂川・遠軽富良野・滝川・砂川と転勤し、今年3月31日定年により40年におよぶ公務員生活をつつがなく終了、年金生活を迎えることとなりました。

定年と同時に富良野の知人の紹介で、テレビドラマの舞台となった、北の国からの麓郷に農家の廃屋を求め定住することになりました。

麓郷は、大雪山系の前富良野岳・富良野岳・大麓山・カミホロカメトックなどの山々や鬱蒼とした樹海の東大演習林に囲まれた自然豊かな農村です。

### わたしの趣味

年甲斐もなく、若い頃からの「何でもやってみたい」「やってみよう」という意欲は今なお旺盛で、アマチュア無線・写真・絵画・短歌・植木いじり等々サークル活動をすすめています。なかでもアマ無線は昭和30年開局、コールサインJA8LLとして運用中です。山歩きや自然観察には専らハンターキー・カメラ・フィールドスコープを肩にいつも重装備で行動しています。

短歌は、まだビギナーですが、北海道花林短歌会に所属し道新日曜歌壇選者山名康郎先生の指導を受けながら四季折々の自然詠に挑戦しています。

### 写真・絵画

愛用のカメラは、キャノンのF1・AE-1ですが腕の方はまだまだビギナーで、専ら麓郷の自然を手当たり次第に写しまくっています。

絵画も山を中心に農村風景をべたべた塗りかざしているところです。

## 廃屋での自然観察

農村はこのところ農業の近代化、農産物の自由化、そしてまた営農者の高齢化、後継者問題、花嫁不足等々色々な問題で離農する農家が意外に多いようです。そんなときたまブロック二階建の手頃な農家の廃屋を求めることが出来たので、大工工事・左官工事・塗装工事と自分ひとりで営繕補修を行い 完成させました。(工事費は原材料購入のみ)

庭には無線用のアンテナも高々とそびえています。

自宅のすぐそばが東大演習林ということもあって、四季それぞれの野鳥が遊びに来てくれます。庭先に餌台も巣箱も幾つか取り付けました。

二階のベランダには野鳥観察用のフィールドスコープを設置し何時でも観察できる体制をとっています。

朝早くから鳥の鳴声で目をさまし小鳥たちの動作や習性を見ていると、つい朝食を忘れてしまうことが度々です。

この廃屋を自然観察への拠点として、私の新しい第二の人生を自分の趣味と連携させながら、健康で明るく潤いのある生活をのびのびと過ごして参りたいと思っています。

## さいごに

地元富良野市でも生涯教育として自然観察会・野草学習会・ふれあい自然教室・ホテル観賞会・樹木・昆虫学習会・きのこ学習会など種々な行事が計画されておりますが、私も可能な限り地域の皆さんと連帯し各種の行事に参加しながら、であい、ふれあい、まなびあい、をモットーにボランティア・レンジャーとしての技術向上に努力して参りたいと思っております。

会員の皆様、こちらへお越しの際はぜひ北の国、麓郷の森へ足をのぼしてください。一緒に麓郷の自然を観察しませんか。

お待ちいたしております。

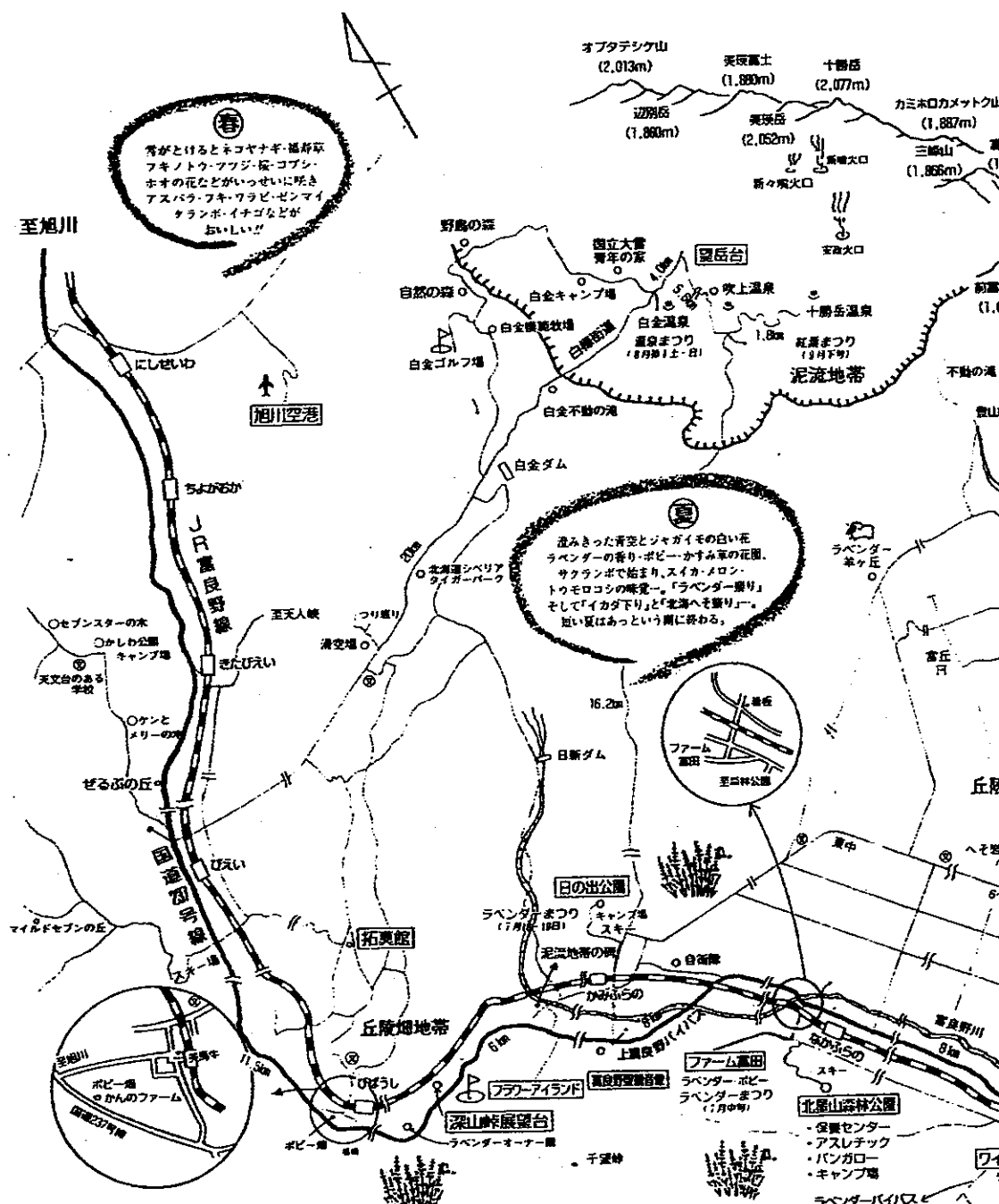
076-01

富良野市字西麓郷2

大宮正義

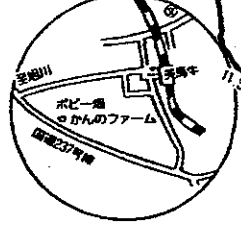
(0167-29-2462)





雪がとけるとネコヤナギ・通称萩フキノトウ・アブジ・桜・コブシ・ホオの花などがいっせいに咲きアスバラ・フネ・ワラビ・ゼンマイ・タランポ・イチゴなどがおいしい!!

造みきった青空とジャガイモの白い花。ラベンダーの香り・ポピーかすみ草の花壇。サクランボで始まり、スイカ・メロン・トウモロコシの収穫。『ラベンダー祭り』そして『イカダ下り』と『北海道へ参り』。短い夏はあっという間に終わる。



- ・ラベンダーは、7月中旬から下旬にかけて見ごろとなります。
- ・一部まつりの日程が変更されることがありますので、ご確認ください。
- ・詳しくは、富良野ガイドブック「ひとりで楽しむ富良野」をお買い求め下さい。

**ご注意**

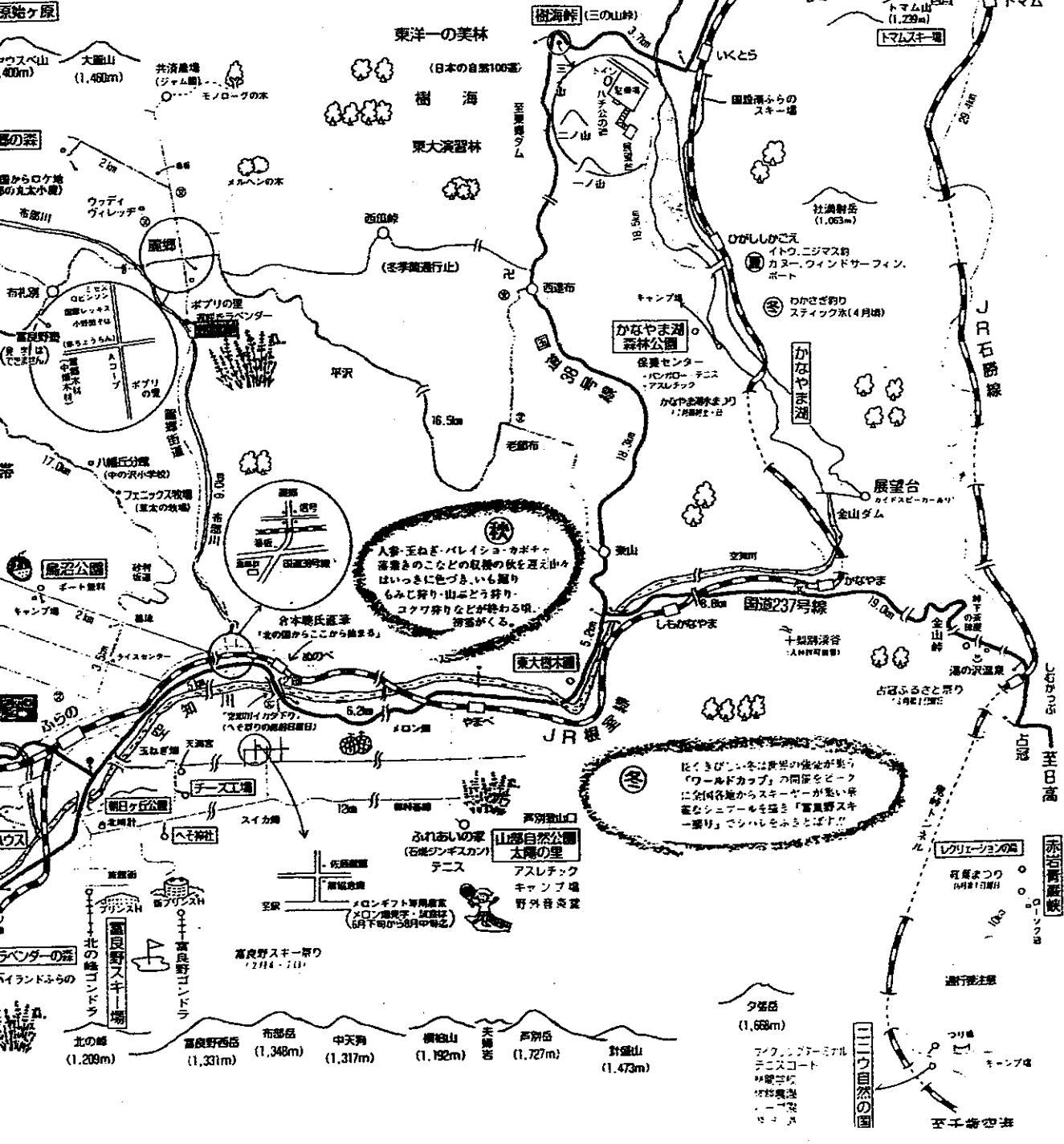
- 1.美しい景色は生活の場ですので、片側込の農作物を守るため、畑の中には入らないで下さい。
- 2.美しい風景を守るため、ゴミや空き缶などはお持ち帰り願います。
- 3.写真を撮る時は、農作業の邪魔にならないよう気を付けて下さい。

至札幌

●北のロマンチック街道●

Welcome!

# ふるさとまっぴ



原始ヶ原

ワウスベ山 (400m) 大蔵山 (1,460m)

共済農場 (ジャム園) モノローグの木

東洋一の美林 (日本の自給100選) 樹海 東大演習林

樹海峠 (三の山峠) 3.7km

狩勝峠 (日本8番) 至帯広 至帯広

至国産パイロット

お5ホリ

カヌースラロームコース

トマム山 (1,239m) トマム トマムスキー場

国からロケ地 (の丸太小童) 布部川

ワッディ ウィレッチ

西血峠 (冬季通行止)

トクハチの山 三ノ山 一ノ山

国産滑ふらの スキー場

社溝射野 (1,063m)

布礼別

ボプリの里 遊歩道

平沢

西連布

ひがししがえ イトウ、ニジマス釣 カヌー、ウィンドサーフィン、ボート

ひがさざり スティック氷(4月頃)

高良野 (東35号線) (東35号線) (東35号線)

ボプリの里 遊歩道

花部布

かなやま湖 森林公園

かなやま湖

展望台 カナヤマカー

八幡丘分校 (中の沢小学校)

フエニコラス牧場 (星太の牧場)

東大蔵木園

東山

国道237号線

金山ダム

高良野公園

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜大蔵木園

山

かなやま

展望台

キャンプ場

合本氏庭園

夜

## 仲間になって

滝川市 工藤 栄一

昨年、10月、当別町にあります道民の森で行われた第10回の研修会でボランティアレンジャーの仲間入りをさせていただきました。協議会にも加入し、自然保護の立場で広く学習したいと考えておりますので、宜しくお願いいたします。

とにかく自然が大好きで、時間があれば家族で野山に出かけ、野の花、野鳥、昆虫、樹木、そして小動物とあれもこれも欲張りながら自然を観察しております。

家族の興味の中心は様々です。妻と娘は、野の花、人目に付かないような可憐な花を見つけては、図鑑でその名を調べております。息子は、昆虫や小動物が大好き、クワガタやサンショウウオを捕まえては観察をしています。私は、野の花に興味を持ちカメラ撮影を楽しんでおります。

7月5日は、早朝から雨竜沼湿原の山開きに参加してきました。登山口では、偶然以前一緒に登山していたT氏に会ったり、東京からきた2人の婦人に話掛けられたり自然を愛する者同志、楽しい会話が弾みました。

暑寒荘が近代的に成ったり、あまりにも整備された遊歩道にはちょっと疑問を感じましたが、行く道々に咲いていた色取り取りの草花、湿原に咲く小さな花々は、我々疲れた登山者の心を和ませてくれました。

研修会や自然観察会、バードウォッチングなどに機会あることに参加し、ボランティアレンジャーとして独り立ちできるように学習していきたいと思っております。皆さんの御協力をお願い致します。



## ボラ・レン初出動の記

ニセコ週末悠遊町民

小泉 郁夫

道道 314号線、車で倶知安からニセコ五色温泉へ向かう。急カーブを曲がって岩尾の下あたりに出ると、今まで乳白色一色の世界を走ってきたのに、突然紺碧の空の中にニセコアンヌプリ、イワオヌプリ、ワイスホルンの3山があざやかな緑の姿を見せた。麓からずーと視界をさえぎっていた霧が山頂付近にはなく、一転快晴の峰々、同乗させてきた3人のおばさん達「ワアー、素晴らしい」と、もはや黄色くもない? 歓声をあげた。

小樽の水族館のあるS町の人達、日頃海は見飽きているので山の景色の中を楽しみたいとのこと。2年前に病こうじて別荘を設けた、我がこよなく愛するニセコを案内することに、限り無い生きがいを感じている男には真に嬉しいお話、7月4日9:26着のJRで駅に着いたところを出迎えてこの案内はスタートした。

先ずニセコお花畑で下車、エゾイソツツジが白い小さな花を満開にして、柴紅色のハイ松の花も咲く緑の中で競い、その日陰の下には、アカモノがこれまた小さな可憐な白い花をつけている。湧き水のきれいな流れに手をひたし、路上に止まったライトバンをふっとみると、2箱もの根曲がりタケノコを採った中年の夫婦が、その整理に余念がない。

再び車でニセコ・パノラマラインを経て、神仙沼の駐車場に車を置き、少々きつい年令かと思ったが特に望みというので、沼までの片道20分程のハイクを楽しんでもらう。道端のオオカメノキの緑の葉があざやか、マイヅルソウやツクバネソウも咲いている。神仙沼の湿原には、ワタスゲ、エゾカンゾウ、ヒオウギアヤメなども見られた。沼の端にはミツカシワが群生しているが白い花も何本か咲いている。隊列を組んで元気に歩いてきたおばさん達のグループに道を譲る。「東京からきましたの、オバタリアンのハイキンググループです」と自嘲する。

湯本温泉の泉源となっている球状硫黄が浮遊する大湯沼を眺めて、蘭越町営の雪秩父の露天風呂で汗を流してもらおう。わずか300円で鉄鉱泉と硫黄泉の2種の温泉を楽しむことができる。

帰りにはニセコ町有島の一面の菜の花畑、8分咲きの黄色の向こうにえぞ富士羊蹄山をゆっくりと眺め、比羅夫の登山口では、わずかに百を余りを歩いて深山の雰囲気を経験してもらおう。前に訪れたことがあるというところはカットしたが、昼食にはニセコプリンスホテルで、若いテニス客に混じって華やいだ気分をひたすなど、バラエティーに富んだニセコを楽しんでいただけのものと、ボラレンはひとり満足にひたっている。



## 自然界（植物）のはてな？

炭にも白と黒・甘い汁を吸う話ー樹液の不思議・歴史を刻み込んでいる木・自衛か侵略かー植物の他感物質・森の宝物ー土壤動物・森の社会に不倫はない・常緑樹の葉は何時落ちる・紅葉、落葉、色さまさまに・空飛ぶたね・切株から方角がわかるか・どこが違う木と草・木のうえに木が生える・土は生きている・緑のダム・健康の源ー森林浴・森が支えた古代文明・雪が嫌いな北国の木・どうやって測る？地球の森林面積・フィットネスによい森の歩き方・魚を育てる森

（森林の100不思議 から）

### 樽前山ウコンウツギ見学記

札幌市 佐藤 健一

六月は年中で一番気候が良いといわれているのに、五月から六月の中旬にかけて、毎日の肌寒い曇り空、今年は冷害になりそうだと気象関係者の予想である。

岩見沢の山口先生から「樽前山のウコンウツギの花を見学しよう」との企画も天気次第でウラメシイ空を眺めていたところ、六月二十一日、広報部長の佐々木さんから「明日は大丈夫だろうから行きましょう」との電話に、ハイハイの二つ返事で了承した。当日、樽前山ウコンウツギ見学隊を結成し、久ぶりの好天に祝福されて我家を後にしたのである。

さて、樽前山は明治四十二年の大噴火で出来た巨大なドームを持つ山、北海道に住む人なら一度は必ず遠くからでも見たことのある約40メートルのドームのある三重式火山だそうですが、私にはどこが三重式なのか今だに頭を捻っている。

とにかく高山植物が比較的多い山と聞いているので、楽しみにして砂利道脇のウコンウツギ花を見ながら、七合目の登山口まで到着した。

先ずは、登山口付近の観察、マルバシモツケ・ナナカマド・ウラジロタデなどの中に、ウコンウツギが大満開。見事な咲きっぷりに来た甲斐があったとたっぷり見学して、次ぎは頂上にアタックと云ったら恰好良いが後から登って来る登山者の全員に追い抜かれながら、エソイソ

ツツジのお花畑、高度が上がるにつれて矮性化するウコンウツギの花畑の素晴らしさに夢中で息切れも気にならない。太平洋そしておぼろに新千歳空港から風不死岳・恵庭岳などのパノラマに感激しながら頂上に着いた。

山頂ボール前で、記念撮影。すると、涼風に交じって蝉の鳴き声が聞こえてきた。佐々木さんが「こんな高い、しかもさした樹木も無いところで蝉とは」と妙に感心して聞き入っている。

近くで見るドームは、黒いガキガキした背の恐竜たちの化石を巨大なザルに入れて、ドスンと置いた感じだ。

とにかくドームを一周して見ようと、軽石のガレ場を転ばぬように用心して噴気口目指してGO!

そこにも、ここにもエゾイソツツジが「ドッコイ生きてる」と言わんばかりに根を張っている。いよいよ噴気口、そこからは地球の太古の響きが聞こえてくる。

「ドドドとゴーゴーゴー」の大合奏……………

地球創世期46億年前のエネルギーが、今も青い亜硫酸ガスが白い水蒸気を伴って演奏する。地底の音楽だ。

不気味な色の噴気口は、さしずめ演奏ステージと言ったところか。

3人でしばし聞き入ったところで、ガスにやられてゴホンゴホン咳をして退散。1/4周したところで、昼食の場所探しをする。

あたりは黒い落岩地帯、大きなものは高さ4、5メートルもあろうか。岩の林みたいだ、見上げるとドームがオーバーハングの感じ。

食事をしていると、岩かけから50歳がらみの夫婦が現れ「千歳から来た」と言い、東北なまりで道を聞いて岩かけに消えた。代りに岩かけの向こうに何やら茶色の動物が、こちらを見ている。よく見ると耳が長い。「兎だ。兎がいる」と声を出したら、驚いたのかピョンピョンと岩かけに見え隠れして消えた。一瞬のことだったが、不思議の国のアリスも、かくやのおとぎの国の情景が脳裏をかすめた。

時計を見ると一時半、そろそろ下山の時刻だが、まだ目を地面に移そう。そこにはエゾイソツツジに交じってイワヒゲ・マンネンスギ・シラタマノキ・コメバツガザクラなどが、良く観察しないと見過ごすほどの大きさに、大自然の中をたくましく生きている。

丁度、樽前山頂を一周するかたちで、下山を始めた。山頂を見上げるようになった頃で、タルマエソウ（イワブクロ）の咲き始めに出合う。

薄いピンクの花は、「満期になったら、またおいで」と言っているようである。もとの登山口も近ずきケヤマハンノキ・ナナカマド・ミスナラなどの林の中で、佐々木さんが突然「この木はなんの木だろう」と言うので、見るとノリウツギの様であり、「……でないか」と言う。「下の方をみて御覧」と言う。良く見るとウコンウツギの花が二っ三っぶら下がっている。

矮性化したものを見つけて来たので、自然の手品にひっかかってしまったのだ。  
3人合わせて180歳が、この時は30歳になったような気分の大笑いでオシマイ。



江別市 鈴木 彰

振れ立つ桂の樹齡幾ばくか

縦裂深く樹皮に刺める

たやすくは枯枝離さぬ木質の

春緑の樹も芽吹きはじめり

着床せるミドリシジミの精細なる

模様確かむルーベかさして

堅雪を芽吹ける森に踏み均し

キハダの樹皮の薬効を聞く

けだものの足跡を雪に追いやきて

確かむるなり深き林に

徘徊の足跡雪に印しゆく野の

生き物の特徴を聞く

# 支部結成の実情報告

オホーツク支部

支部長 高橋 義治

今回、網走支庁管内のレンジャー30名の中、21名の参加を得て、支部結成に漕ぎ付けることができました。なかなか格好の良い話のようですが、今後における協議会の支部（支会）作りの参考にでもなればと思い、恥を忍んで結成に至った実情を報告します。

## 世話役

地方幹事の小野氏を中心に和泉氏と私の3名だけが協議会の会員でもあり、管内の地理的環境からの時間的な制約もあることから3人で汗をかくこととしまし、叩き台を作り、会員該当者による準備委員会に回り、その意見を取り入れて成案を得、結成総会にのぞむこととしました。

○ 会則は、支部会員は当然本部（協議会）会員との考えから、協議会会則を管内の実情に合わせるための是正をすることに止めました。

○ 支部の任務、いわゆる支部のすべきことについての考え方は、網走支庁管内の地理的環境からくる、たとえば、協議会の諸行事に網走支庁管内から参加するには、時間と経済的に難しいことのように制約があることから、広い管内に散在する会員が、それぞれの地域で、ボラ・レンとして一人立ちした活動ができるように、現地での実務的なものを体験し身につけ、自信をもってもらうためのお手伝いを、支部が出掛けて行って行うことを基本にすることとしました。

## 準備打合せでの意見

準備打合会は、1回と考えていましたが、2回開かざるを得ませんでした。それは、1回目の準備打合会の意見が、会の性格を左右するものであった為、世話役会としては、協議会の正式な見解は現時点では無理であるにしても、一部の役員の方の見解だけでも協議会の意向として聞きたかったことから、時間が必要だったためでした。この意見は次のとおりで協議会会員の世話役3名を除くほゞ全員の意見でした。

（1回目の意見）

1、北海道ボランティア・レンジャー協議会への加入は必要がない、これとは別な自主制をもった会にするべきである。

どうしても下部組織にするのであれば日本野鳥の会方式をとり自主制を持

ったものにする。

## (2回目の意見)

2、会則の会員資格が、北海道自然観察ボランティア・レンジャー育成研修会の受講終了者で網走支庁管内に居住する者となっているが、これでは会の民主制と自主制を制限するものであり、この制限をはずせ。

## 世話役会の対応

世話役会では、意見を分析し、次の対応策でのぞみました。

1の意見の分析は、協議会への加入を拒否する気持ちは、協議会の活動が札幌圏になることから、オホーツク圏からの参加は時間的にも経済的にも無理であり、結果として、札幌圏の活動のために会費を納めるようなものと思われること。

日本野鳥の会方式とは、本部会員と支部会員とから成り立ち、本部会員以外は、上部組織の制約は受けない制度として、自主性を保持している方式であり前段の意識が強いために、協議会の支部としての形式を取るのであれば、この方式を保てと言う要望になったものと思われる。(組織論からではなく、会費負担という経済的要因が強いものと判断された。)

以上の結果から、世話役会として、支部会員＝協議会々員との考えを先送りして、支部活動を成功させることが協議会の存在を認識させることになり、会員加入につながる。との長い目で見ることにし、支部としての形式を残し、野鳥の会方式をとることにした。

自主性の確立については、北海道ボランティア・レンジャーの任務を見失わない限り、結果として、協議会の活動と異なったものにはならないとの考えに立ち、自主性を確立することにし、設立総会議案の巻頭に「支部の性格」としてまとめて対応することにしました。

2、の意見については、その場でボランティア・レンジャー以外の者でも養成研修受講者予備軍として育てるのも仕事の一環として位置付け、また、居住地の枠については、近隣支庁管内での支部結成を見るまでの間、希望があれば受け入れる道を開いておくためと位置付け、会則を整理した。しかし、この意見交換の中で、会の中に自然保護活動を持ち込もうとする意図が感じられたことから、世話役代表として、この会はボランティア・レンジャーの活動を助長するための会であり、ボラ、レンの任務は皆さんが知っているとおりであって、私も保護活動の面では北海道自然保護協会の会員として、人格(立場)をかえている通りであり、会としては「自然保護活動は行わない」と宣言せざるを得ま

せんでした。

## 設立総会

設立総会にあたり、支部へ参加する意思の有無と出席できない者の委任を取り付け、総会にのぞみました。

総会では、会則から「北海道ボランティア・レンジャー協議会の支部」を除けとの意見がだされ、意見交換をはかったもの、結論がでず、私も原案が否決のときは、身を引く覚悟をきめ、議長に裁決を求めた結果、辛うじて2票の差で原案が承認され、協議会々員3名の支部が誕生したのです。以上、つぎはぎだらけのような支部ですが、皆さんから一人前の支部として認められるよう、支部会員一同、一生懸命頑張って行きますので、暖かいご支援をお願いします。

## お 願 い

— 北海道ボランティア・レンジャー協議会の入会申し込みと

会費の納入について —

入会は会則（第5条）により、会費の納入によって入会申し込み及び新規・継続会員として手続きがされたものとします。

会務の都合もありますので、なるべく早く納入くださるようお願いいたします。

なお、事業年度は会則（第15条）のとおり、8月1日から翌年7月31日までです。

会費は3000円です。

### 郵便振替口座

番号 小樽 8-21442

名称 北海道ボランティア・レンジャー協議会

現金の納入やその他不明な点がありましたら、下記にご連絡をお願いします。

〒065 札幌市東区東苗穂6条1丁目8-26

小 竹 敷 博

電話 011-784-6251

# 特 集

本協議会会長の河村千束さんが1年有余の闘病生活にピリオドを打ち、4月18日(土)午前9時52分に召天されたことを会報「エソマツ」第21号でお知らせしました。

河村会長は北海道ボランティア・レンジャー協議会結成以来、会長として常に我々会員の先頭に立ち、「自然と人との間の架け橋役」としてご努力されました。

今号(第22号)に、特集として会報「エソマツ」に投稿した「巻頭言」を掲載しました。改めて河村会長の心情を受けとめ、感謝の念と今後の協議会発展のよすがにしたいと思います。

## 河村会長の略歴

- 大正 8年 9月19日 札幌で7人兄弟姉妹の2男として生れる。  
昭和16年 3月 北海道帝国大学農学部林業実科卒業。  
昭和16年 4月 北海道林務部勤務。  
昭和17年 4月 兵役 25連隊に入隊、月寒・上敷香・当麻。  
昭和21年 4月 茂登子夫人と結婚。  
昭和21年 4月 札幌営林局勤務。以降恵庭営林署製品事業所長、上芦別営林署事業課長、札幌営林局造林課育林係長、芦別・静内・新冠・大雪各営林署長、旭川営林局利用課長、函館営林局事業部長を歴任する。  
昭和49年 8月 岩倉組木材KK山林部長に就任。  
昭和60年 岩倉組木材KK退職。  
昭和61年12月 北海道ボランティア・レンジャー協議会の前身である「エソマツ会」会長となり、現在に至る。

その他河村会長は、スポーツマンで札幌スキー連盟会員・札幌林友部部長・チロルスキー山岳会友として活躍。特にスキー連盟会長から、スキー技術の普及発展と各種事業に率先協力されたことについて賞されている。

平成 4年 4月18日 特旨をもって勲四等瑞宝章を授与され、正五位の位記の追賜を受ける。





会報「エソマツ」の発刊にあたり 「エソマツ」第1号 昭和62年6月1日

ボランティア・レンジャー「エソマツ会」が発足して半年が過ぎ、新緑の五月の季節となりました。会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この間、役員の皆様には何かとご多忙にもかかわらず、本会の発足にご尽力され、軌道に乗ることが出来ましたことを衷心よりお礼申し上げます。

さて、年と共に自然志向の高まりの中で、人々は自然界へと野外活動が活発化しているのが昨今の傾向であります。

このような情勢下で、私達の「エソマツ会」はその目的である自然保護思想の普及と次ぎの時代への北海道の自然保護と保全に務めるために、会員の皆様と共に研鑽して参りたいと考えております。

そこで私達は、常に自然と人間との間の橋渡しの役割があることを認識しつつ、自然保護思想の研鑽のために今回会報「エソマツ」を発刊することにしました。あまり難しく考えないで、ありのままの現象をありのままの姿で語り合う場として、お互いに活用して頂きたいのです。

ともあれ、私達の「エソマツ会」の活躍と発展は、会報「エソマツ」によることが極めて多いことと思います。お互いにこの会の発展のためにも、会報「エソマツ」を愛し、育てていきたいものです。また会報を通じ会員相互の親睦を図り、楽しい会であることを祈願して会報「エソマツ」の発刊のご挨拶といたします。

初夢によせて

「エソマツ」第4号 1988・1・30

希望と夢に満ち溢れた新春を迎え、皆様の御健勝と御多幸を心から御慶び申し上げます。

私達は、いま新しい時代の潮流に乗り新しい世紀を迎えようとしています。この流れの中にあって人々は潤いのある豊かな生活を求めるために、郷土北海道の豊かな自然の恩恵を受けて参りました。この豊かな自然を新しい世紀へ引き継ぐため、去年は折にふれ自然の素晴らしさ、自然の大切さを多くの人々と共に学び、語り、お互いに理解を深めて来ましたが、今年は自然と人間のパイプ役として会員の皆様と共にさらに研鑽に務め、自然に親しむ心、生物を労わる心を一層深めて参りたいと思っています。

さて、昔から初夢は正月二日の夜に見る夢で、夢占いから生れた言葉であると云われていますが、私の見た初夢はそのような夢でなく、日々考えていた事が夢となったまでのことです。

去年は、毎月野幌の自然観察会に参加し、多くの人々と自然との接し方、見方、

考え方を学びました。その折々に何処か適当な所に私達の学びの巣を作りたいと思うようになり、それが今年の初夢となった訳です。

夢の中では、多くの自然に親しむ人々が集まって何やら楽しく話をしています。その場所はニレの木、シナの木、イタヤカエデ等の大木が茂っている野幌森林公園の大沢口のものでした。その学びの巣は、自然木を活かした山小屋風の二階建ての立派なもので、一階には事務室、調査室などがあり、二階は野鳥観察室です。

その二階は、四方が広いガラス窓で自由に観察出来るように観察用望遠鏡が4台据え付けられていて、人々は思い思いに野鳥を観察しています。そしてウトナイ湖の安西先生のような人がおられ、ユーモアたっぷりに野鳥の話をしておりました。私も早く野鳥を見たいと思うのですが、なかなか順番が回ってきません。そのうち、何かの物音で夢から覚めるというロマンに満ちた楽しい夢でした。

四十数年前、チャーリー・チャップリン主演の「モダンタイムス」という映画がありました。彼の生活はすべて機械によるもので、ついに人間が機械に使われるという当時としては極めて近代化（高度化）を比喩した傑作な作品で、若き日の私は大いに感動したものでした。

ところで、現在私達の周辺は次第に電化され、「高度の電気製品の中で生活する高度ハイテク家庭となる」と何かに書いてありました。時の流れと共に科学の発展は益々高度化されるであろうし、高度化が進めば進むほど人々は夢もなく、人間の理性さえも失われ、味気無い世になっていくことを私は危惧しています。

このような味気無い世にならないように、また、人間らしい豊かな潤いのある生活が出来るように、私達は新たな気持ちで自然を大切に、自然を慈しみ、自然に親しむことを認識し、ロマンのある夢を何時までも追い続けて行きたいものです。

そこで、私の初夢、野幌森林公園に私達の自然観察丸太小屋を建てる夢が、正夢になるように今年は努力したい。

そしてロマンある楽しい遊びを人々と共に繰り広げていくことを今年の目標とし、年頭の御挨拶といたします。

**議会に参加しよう**

「エゾマツ」第6号 1988. 6. 30

私たちボランティア・レンジャーは、北海道の自然の素晴らしさや大切さを多くの人々に理解してもらうため、人と自然との「橋渡し役」として誕生しました。

以来、自然観察会等への参加協力、会報「エゾマツ」の発行など、徐々にその足場を固めつつあります。

しかし、「橋渡し役」を担っていくには、絶え間なく自己を研鑽していくことと、血の通っ

た組織運営が必要です。

今年は北海道からの要請もあり、第3回ボランティア・レンジャー育成研修会に協力参加するとともに、あわせて会の総会・研修会を開催いたします。

場所は、前号でお知らせしましたとおり、7月下旬釧路湿原国立公園で行なわれます。この機会に、湿原の自然を楽しみ、また、会の活動計画等を検討し、会の発展のために実りある集いにしたいと思います。会員各位におかれましては、ご多忙のこととは思いますが、務めて本年度の総会に参加されますようお願いいたします。

### 三年目を迎えて

「エソマツ」第7号 1988. 10. 5

「エソマツ会」も3年目に入りました。この機会に、会の発展を願う意味からも組織等の見直しをする必要があるとの意見があり、この7月の総会で、まずボランティア・レンジャー「エソマツ会」を北海道ボランティア・レンジャー協議会と改称し、その運営もよりよい活動が出来るように部制を設定し、規約の一部改正をしました。この機会によりスムーズに会の運営が行なわれるよう、会員各位とともにさらに努力して参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

常々、私は会員が相互に連繫を深め、情報を積極的に出し合うことが会の発展に繋がると考えております。私達は多くの人々と共に自然の中で楽しく自然を語り、自然の偉大さ・恵みの尊さを知る喜びにしたり、ささやかな活動の中から学んだ事々を協議会の糧としていくためにも一人ひとりの実践と情報は、私達の「会」の運営発展の重要な「かぎ」となりますので会員各位におかれましては、自主的に観察実践をして頂き、その情報を交換し合うことが「会」の目的である「人間と自然の架け橋」になると考えています。

要するにこの「会」は、自然を愛する会員が自然を理解し、自然と人間の調和を考えていく共同事業だと思えます。

最後になりましたが、第3回ボランティア・レンジャー育成研修会を受講された皆様には、それぞれ各地域でご活躍のことと思います。皆様が当協議会の趣旨を理解され、一人でも多く私達と共に活動して頂ければそれだけ仲間の輪も大きく広がり、協議会の目的である自然と人間の架け橋も、さらに大きくなることと確信しています。

皆様の積極的加入を、心からお待ちしています。

1989年が静かに平和のうちに明けました。1988年は会員を初め、多くの人々の御支援を賜わり心からお礼も申し上げます。

当会も4年目を迎え、より一層多くの人々の声に耳を傾け、さらに豊かな郷土北海道の自然と人間の架け橋になるよう努力して参りたいと思います。

さて、年が新しくなるだけで心身がすがすがしくなるのは何故だろうか。時の流れは連綿として続くなかに正月は必ず巡って来て、時流に節目をつける。そして、情性に流され勝ちな私たちの生活に、心に、新鮮なものを与え続ける。「心機一転」という言葉は、まさに正月に相応しい言葉だと私は思っている。

日の出前に、神社に参拝し若水で口をそそぎ、拜殿に額ずき新しい心と新しい目で、自然に接した時、身の引き締まる思いがする。何時もの見慣れた山も森も小川も統べて、森敵に見えてくるのである。

新しい決意と未来に向かっての願いを祈るのも正月であり、希望に向かっての出発点でもある。その出発点に立って1989年を如何に活動するかが、会の隆盛に係わって来るものと思う。種々問題点もあるが、お互いに考え、理解し、情報を交換し、一步一步進むことにより、初め私たちの会の目的が達せられるのではないだろうか。そのためには、常に「張り」のある活動をして行きたい。その根源は常に自然に接し、自然を愛し、尊ぶことが大切である。

最近、動物たちの種の保存のための行動がテレビを通して話題になっている。動物たちの行動は、私たちに崇高さを与えてくれる。しかし、動物は自分に關係のないものには極めて「冷酷」で「思いやり」が全く無い。この点が人間と異なるところである。

しかし、近頃は人間の中にも全く「思いやり」の無い人が見受けられるのは、誠に残念なことである。今こそ「思いやり」の人間教育をする時期であると思う。「思いやり」の心こそ自然保護の原点と思う。

また、今年は地球規模の環境破壊に対して、世界をあげて取り組む国際協力元年とも云われている。炭酸ガス・フロンガス・森林破壊等、その対策は世界が一つになって始めて達成出来ることである。

私たちは私たちに、自分の周辺の小さな事から環境保全活動を始める 때가巡って来たと私は思っている。

このような事々を思いながら、正月を迎えました。今年もまた、多くの人々と共に自然の中で面白い遊びと、楽しい自然観察を繰り広げていくことをお願いして新年の御挨拶といたします。

今日、自然との接し方に色々な方法があるが、私は素直にあらゆる角度から自然に接してその巧みさ、不思議さ、複雑さを私なりに総べての機能を働かせて、面白く楽しさを求めていき、人と自然との深い係わりを見つめていきたいと思っている。それが自然観察の楽しい出発点だからである。

## 新しい年輪を刻む

「エゾマツ」第12号 平成2年 2月20日

1990年の春が静かに明けました。おめでとうございます。

この会も1989年には皆様に色々とお世話になり、厚くお礼申し上げます。今年もさらに充実した会になるよう努力して参りますので、会員の皆様にはより一層の温かいご協力をお願いいたします。

さて、去年は昭和から平成に移り変わり、国の内外も極めて慌ただしい年でありました。また、世界の人々が新しい時代へのお出発点として多くの議論が交わされた年でした。なかでも自然環境問題を中心に世界の人々が一つの考え方のもとに地球的規模の対策が打ち出された年でもありました。さらに身近な問題として私たちの周辺の現況を改めて見直す年でもありました。ゴルフ場の公害、リゾートスキー場の問題さらに私の身近かな所で行なわれている高層マンション建設など環境の変化が急速に進んでいる姿を見て、心が痛む思いがします。

ところで移動することの出来ない樹木はそれぞれ巧みな冬芽をつくり、寒さなど自然からの脅威に耐えながら静かに春を待っています。草花も早々に実を結んで落下し、暖かい落葉の中に潜り込み雪の下で春の来るのを待っています。

一方、ナナカマドなどの実は小鳥の餌となって遠くに運ばれ、ドングリもリスや野ネズミの餌になって随所に運ばれてそれぞれ繁殖の手助けとなっています。このように自ら移動の出来ない植物は、それぞれ冬を上手に利用しながら節目のある生活をしています。年輪もその証の一つで、今年も樹々は新しい年輪を刻みました。

四季が判然として自然と生活に節目のある国は、世界でも日本だけだと思います。その美しい節目のある日本に生れて、私は幸せを感じています。

故郷、そこには村祭りがあり、花見があり、紅葉狩があり、雪との戯れがあって自然と生活が一致している国が、私たちの住んでいる日本であります。そのことを認識してこそ、故郷の自然を守る原点であると私は思っています。

ところで最近、活性化・近代化の名の下に美しい身近な自然が失われ、不健康で砂漠化しつつある都市生活から逃れ、美しい自然を求めて旅立つ人々が年々増えているという。

このような現象を、決して見逃さないのが企業であります。企業はあらゆる知

恵と手段で故郷の美しい自然に変化を与えているのが北海道の現況であり、私たちに多くの問題を提起しておます。

ともあれ、私は今年もまた多くの人々と共に森の中で語らい、共に楽しみ、美しい風土の中で味のある生活が続けられることを願いながら、新しく美しい年輪を刻んでいきたい。

## 春は風に乗って

「エゾマツ」第13号 平成2年 5月14日

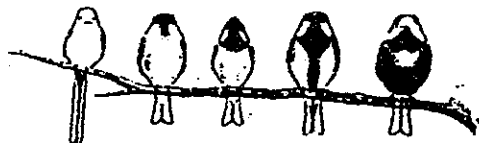
「春は馬糞風に乗ってやって来る」とは、札幌の古い風物詩であった。乾燥した馬糞が「春一番」の風で舞い上がり、街をすっばりと包む頃、家々の「かまど」からニシンを焼く煙りが漂う。そのニシンを人々は「春告魚」と云って、食膳に出ると早春の訪れを感じたものでした。

当時の人々の生活、今日ほど豊かでなかったのですが親しみと素朴な人情があって、春が巡り来るたびに暖かい目覚めを感じたのがつい先頃のように思い出されます。それに引き換え、生活が近代化し豊かになったこの頃は「馬糞風」に代って「車粉風」が吹き、ニシンは「幻の魚」となって食膳から姿を消してから久しくなり、春の風に味気なさを感じているこの頃であります。

しかし、北国の長い雪の中での生活から解放され日一日と雪が融け始めると、黒々とした大地が顔を出す。そこには小さな新しい生命の躍動が目に入り、大地の暖かさを感じます。そしてその大地の暖かさの中で、草花は静かに芽吹き樹々の芽が一斉に綻び始めると、春の香りが春風に乗って人々を包みます。

森の中では樹々の柔らかい騒めきや賑々しい小鳥のさえずりがせせらぎのリズムに乗って、美しいハーモニーを醸し出しつつ人々に歓喜を与えてくれます。やがて春も深まり、吹く風も暖かくなると人々は森へ野へと、新しく芽生えた荀の味を求めて春を楽しみ、温んだ小川の流りに触れて春の心地良さを肌で感じます。このようにすべての生物の躍動と息吹を五感で感ずるのも春です。

私は、季節の移り変わりに節目のあるこの地の自然を五感を活用して楽しむことをモットーにその恵みと新しい発見に務めていますが、今年もまた、春風に乗って送られて来る自然からのメッセージを求めて、山野をさまよっています。



季節はずれの流氷の接岸で、オホーツクの海はまた冬に戻った恰好になったが、今年は例年のない暖かさで、春の訪れが早く桜のほころびも早いようである。

札幌近郊の山々のキタコブシやエゾヤマザクラの冬芽の膨らみも、例年より心持ち大きく見えて、4月下旬にはその美しい花を見ることが出来るのではなだろうか。

キタコブシ・エゾヤマザクラや黄白色のカエデの花が咲き終わると、森の植物たちは一斉に活動を始めてフデリンドウ・ミヤマスマレ・ユキザサ・マイヅルソウ・エビネなど競うように咲き乱れ、森の観察には最も適した時期となるので今から心が躍る。これらの山野草を伴ってナナカマド・ホオノキ・ミズキ・アズキナシ・ハクウンボクなど森に華麗な花を咲かせ、北国の短い夏が始まり森の植物たちはそれぞれの繁栄のために思い思いに特色のある美しい花を咲かせて森を彩り、森の観察にふさわしい季節となる。

その森の中ではアゲハチョウを始め、暖かい光りを受けて誕生した蝶たちが花を求めて美しく乱舞すると、森は初夏から夏へと展開していく。

エゾハルゼミが賑々しいコーラスを始め、ミヤマクワガタなど甲虫の仲間たちはミズナラの樹液を求めて活動し、虫たちもそれぞれ生きるためのドラマを繰り広げる。さらに夏が深まると森は緑濃く、人々が森林浴を楽しむ絶好の季節となる。樹々の茂りで小鳥たちの姿を見ることは困難ではあるがその美しい旋律は、森の観察を一層楽しいものにしてくれる。

静かな湖沼に、マガモが子連れで水面に波紋を引いて泳いでいる風景は人々に安らぎを与えてくれる。その岸辺にはオニヤンマが唼々と飛び、エゾイトトンボの可憐な姿を見ると、夏はさらに深まって行く。

初夏から夏にかけて雄のキタキツネは雌を求めて遠く旅立ち、雌は子育てに忙しい。命短いノネズミも子育てに夢中で、シマリスも餌を求めて林道を走れば、エゾリスは枝から枝へと活発に活動する。このような動物たちの子育てと、冬への体力づくりに懸命な姿を折りにふれて観察するのもまた楽しい。

黄白色のオオウバユリ、大型の真っ白い花を着けるオオハナウド・オニシモツケの白い群落など、森の中は白い花が目立ってくる。そしてシウリザクラ・シナノキ・オオバボダイジュの樹々が梢に美しい花を着けると、森の夏はたけなわとなる。

蜂たちも芳しい香りから、蜜を求めてシナノキの梢に集まり蝶たちも樹冠に咲く花を求めて飛びかうのもこの頃である。朝早く林道を歩けば、ミミズやカタツムリがはい出てくる。それを追うようにトガリネズミやオサムシ・エゾマイマイカブリなどの甲虫が動き出し、生きるための激しい闘争を見ると改めて自然界の

生存競争の厳しさを感じる。そして春蟬のコーラスに代って夏蟬の声を聞きながら、林道を行くと足元から樹林へとキンミズヒキ・サラシナショウマなどの美しい花が見られ、やがて紫紅色のエソトリカブトの花が咲き遠くで鳴くアオバトの淋しい声が聞こえて来ると夏も終わりである。

このように森は多くのドラマを展開し、人々に驚異と感動と喜びを与えてくれる。そして今年もまた、自然観察がさらに充実するようにあれこれと模索している今日この頃である。



## 秋に思う

「エソマツ」第11号 平成元年10月 9日

オオルリが鳴く緑濃き森に、コンロンソウ・ホオノキ・ミズナラなど白い花が競って咲き乱れていたのもつい先日のことであった。

台風が過ぎ去った後、あの強い陽射が続いていた北国の八月は急に秋冷となり、人々を野や山にそして森へと誘う。

アカシヤを始め、ホザキナナカマド・シナノキなど晩春から初夏にかけて白い花が咲くのは何故であろう。このようなややもすば見逃しがちな自然の移り変わりには深い理由があると思う。それにしても最近、四季折々に自然を考える人々が多くなりつつあることは喜ばしいことである。

梅雨のない北海道の季節の移り変わりは直線的である。美しいサビタの白い花、黄色いキンミズヒキの花からススキ・オミナエシ・キキョウへと夏草から秋草へと移り変わっていく中で、小暗い森の中にはサラシナショウマの白い花が咲き、明るい林地にはヨツバヒヨドリが咲く。それと前後してキツリフネ・オオハンゴンソウを始め、ハチジョウナ・コウゾリナなどの黄色い花が目立ってくる。そして林道沿いに紫紅色の花を着けるエソトリカブト・ホソバトリカブトや薄紅色のツルニンジンが咲いて森に彩りを添える。

やがて秋の深まりと共に、草の実・樹の実が色付き始め森は燃えるような紅葉の時期を迎える。そしてこの晩秋の美しさを求めて、人々は日本的感情に浸るため森へと足を運ぶのである。

賑ぎ賑ぎしい春の花の楽しさに対して、秋のそれは心に滲む優しさを人々に与えてくれる日本の風土の多様性を痛感せざるを得ない。その風土の美しさを、私たちの祖先は生活詩として詠ってきた。そして生活との密接な係わりの中で一つの生物に名前がつけられていったのであろう。



六月の上旬、「ハクウンボクの花開く」の記事が新聞に報道されてから数日後に、藻岩山のハクウンボクが満開になった。气象台の予報によれば北海道の今年の六月、七月の気温は極めて高く、八月は例年より涼しいと言う。

只今のところ、予報のとおり初夏の訪れも例年より早いようである。私のフィールドノートによれば、藻岩山のハクウンボクの満開は去年は六月十二日で、例年より十日近く満開が早く訪れたことになる。

初夏それは、昔も今も札幌では「札幌神社の夏祭りから」が常識になっているが私の初夏は、藻岩山のハクウンボクの花開の日と決めてからここ数年になる。

札幌の街に、ライラックが咲きアカシヤの花が咲き乱れ、真っ白いハクウンボクの花が咲く頃は北の都の最も美しい時であり、人々は春から夏への衣替えをする季節である。やがて甘い香りを漂わせ、真っ白い花を着けるハシドイの花が咲くと、札幌に本格的な夏が訪れる。

この頃が、樹々の花を楽しみながら街の緑や森の緑の移り変わりを見て歩くのに最も相応しい季節である。そして見知らぬ人と友となり雑談をしながら爽やかな汗を流し、自然の息吹を五感を通して私の五体に流し込むと、自然の恵みの深さと幸せを感じる季節も初夏から夏である。

その友との語りの中から、新しい発見をすることが度々ある。その発見の積み重ねこそ身近な自然を知る上で必要なことであると気付いたときに、また新しいファイトが湧いてくるのも不思議なものである。

ささやかな知識、貧しい表現力しか持ち合わせない私を、自然は何時も温かく優しく抱いてくれる。「自然を愛しましょう」と云う人間側の言葉に対し、「楽しく遊びましょう」と自然からの語りかけを強く感ずるのも夏である。

最近、自然に関して色々なことが報道されている。去年の西側先進国の「ヒューストンサミット」でも、地球環境問題が論議された。それはそれとして今は、私たちの周辺を改めて見直す時だと私は思っている。この見直しこそ、北海道の自然が求めているものでないだろうか。

ともあれ、この美しい北の国の自然を残すためにも、多くの人と共に伝えていくのが私たち「ボランティア・レンジャー」の課題かもしれない。

そして自然と人との係わりを求めながら、自然を保全する輪を拡げていくことが、自然への架け橋となることと私は思っている。

「林間に酒を暖めて紅葉を焼く」白楽天の詩の一句である。この句は晩秋、錦に染まった林の風景を表現していると思う。紅葉する樹の多い国は、中国と日本である。ことに日本はカエデ科を初め、ウルシ・ブドウ・バラ・ニシキギ科など紅葉する種類が中国より多いようであり、まさに紅葉国とでも云える国である。

その紅葉が静かに山から山麓へと移動して来る。紅葉になるのは、厳しい自然条件の下で植物が生きるための摂理であって、日照時間が短くなり昼夜の温度差が大きくなればなるほど紅葉は美しくなる。ことに良く晴れた無風の日が続く年は赤・紅・黄など色とりどりに美しく染め上げられていくのが日本の秋である。

紅葉は樹々の葉に含まれている色素が、気温の変化によって作り出される自然から贈られた芸術品である。最近、札幌市街地やその周辺の紅葉がその美しさに変化が現れているのをここ数年前から感じている。勿論、紅葉の美しさは毎年同じではない。その年の風雨の量・気温によって変化するので、感動的美しさを味合うのは何年かに一度である。

このように秋の日の気象の変化により美しい紅葉を私たちに与えてくれる自然は、最近の大気汚染、酸性雨による森林被害、河川・湖沼の汚染、炭酸ガスによる気温上昇、オゾン層の破壊などによる環境の変化に敏感に対応しているが、紅葉もまた同じように対応している。

最近私たちの周辺の都市開発による自然の乱開発を初め、ゴルフ場・スキー場を含めたりゾート開発が各地で乱立している。私は理想とするリゾートは時の流れと共に必要であると理解しているが、現実を見るとあまりにもビジョンの無い場当たりの計画と短兵急な工事施行で、多くの社会問題を引き起こしている。

その結果として、大きな負担と変化を背負わせられた自然から代償として、常に大なり小なりの災害を人々が受けているのが現在の日本の姿のように思う。このような実態を観察することも勿論必要なことであるが、私たちは私たちに周知の小さな自然の変化を観察してお互いその情報を交換し、交流の輪を広げていくことが差当りの行動であると思う。それがその結果としての自然環境保全へのステップとなり、私たちの目標としている「人と自然の架け橋」になると考えている。

そのためには先ず各地に連絡会のような会を作って頂き、お互いに充実した会に育てるよう努力していくことが協議会に選せられたテーマであると思う今日この頃である。

### 編集後記

本事業年度も後僅かとなり、8月8日(土)午後から第7回定期総会が「カデル2・7」で開かれます。

現広報部のスタッフでの会報作りも第15号から始まり、この第22号で最終となりました。思えば第5回定期総会で、広報部を担当することになりこの2年間、会員の皆さんに原稿をお願いするなどお世話になりました。

とくに、広報部の主要なメンバーである山上光一幹事には公務ご多用のところ、編集・カット・ワープロ・印刷と大変なご協力を願ひ心から感謝いたします。

今号は、河村会長を偲んで特集を組みましたので図書紹介は省きました。

100名を超えた会員の情報交換・親睦・研修に、大切な役割を持つ会報として、もっと充実した内容になるよう新広報部に期待し、お礼に替えさせていただきます。ありがとうございました。(佐々木 記)

広報部 佐々木 幸 夫 玉 田 紀美子  
山 上 光 一 三 谷 幸 美